

会派みらい 政務調査報告

地域の価値を活かす

ジオパーク

～再認定に向けて～

2022/3/22

はじめに

「今年度の会派の活動方針」

【政策的課題】 地域資源を活かす

もっと ジオパーク！

2022/3/22

南アルプスジオパーク

- ・2021年3月 日本ジオパーク委員会より「条件付き認定」(イエローカード)の査定がなされる。
- ・2021年4月 南アルプスジオパーク(以下「南ア」)幹事会で『退会』が提案されるも、「理由が合理的でない」として廃案。
- ・2021年6月 日本ジオパーク委員会との南アの事務局(伊那市長)と意見交換。
- ・2021年6月 飯田市議会にて日本ジオパーク委員会から説明を受ける

<問題意識>

★議会として「ジオ」への認識が薄かったのでは？

★南アの取り組み体制が不十分ではないか？

2022/3/22

視察報告

R3年11月19日～21日



2022/3/22



1. 視察地(熊本県阿蘇山、長崎県島原半島)



2. 視察先

○阿蘇市 「阿蘇ジオパーク推進協議会」

火山の大地と文化

○島原市 「島原半島ジオパーク協議会」

災害と“めぐみ”と“暮らし”

2022/3/22

共通テーマ

活かせ！
大地と文化
&
くらし

2022/3/22

阿蘇ユネスコジオパーク



5年ぶりに噴火した阿蘇山（2021年10月20日）

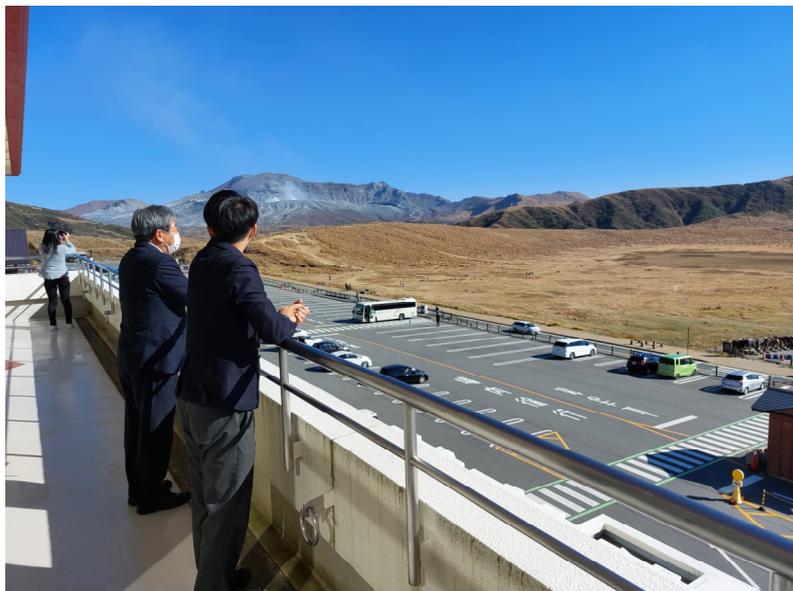
2022/3/22

阿蘇ユネスコジオパーク

○概要

- ・世界最大級の規模を誇る阿蘇カルデラと日本を代表する活火山をテーマとしている。
- ・2009年10月に日本ジオパークに認定され、2014年9月に世界ジオパークに認定。
2016年に、イエローカードの判定を受けた。
- ・阿蘇の火山と人々の暮らしなどが紹介されている「阿蘇火山博物館」に事務局を置く。

2022/3/22



視察当日の阿蘇山（2021年11月19日）

2022/3/22



視察当日の阿蘇山（2021年11月19日）

2022/3/22

阿蘇ユネスコジオパーク

左から

- ・池辺館長
- ・岡田常務
- ・永田事務局長



2022/3/22

阿蘇ユネスコジオパーク

○組織体制

- ・阿蘇市をはじめとした周辺の8市町村にまたがる。
- ・専従の事務局員が滞在し、構成団体8市町村からの出向に加えて、理学博士、学芸員を抱えて学術面からサポート。
- ・構成市町村が出資をするが口は出さない。協議会としてあるべき姿を推進していく関係が構築されている。
- ・全国のジオパークとも連携し相互支援を行っている。

2022/3/22

阿蘇ユネスコジオパーク

○特徴的な取組み

- ・池辺館長は、大学では地球物理学を専攻し地震を研究。同博物館館長を務め阿蘇のエコツアーなどのガイドもしている。(知見の活用)
- ・ユネスコの有識者を外部員として招き、指導を受けている。
- ・JC(青年会議所)も加入し産民学の共同での運営をしている。
- ・お祭りの起源は「大地に根づいた文化」であることから、ジオの取組みとして活用している。

2022/3/22



2022/3/22

阿蘇火山博物館の展示見学



2022/3/22

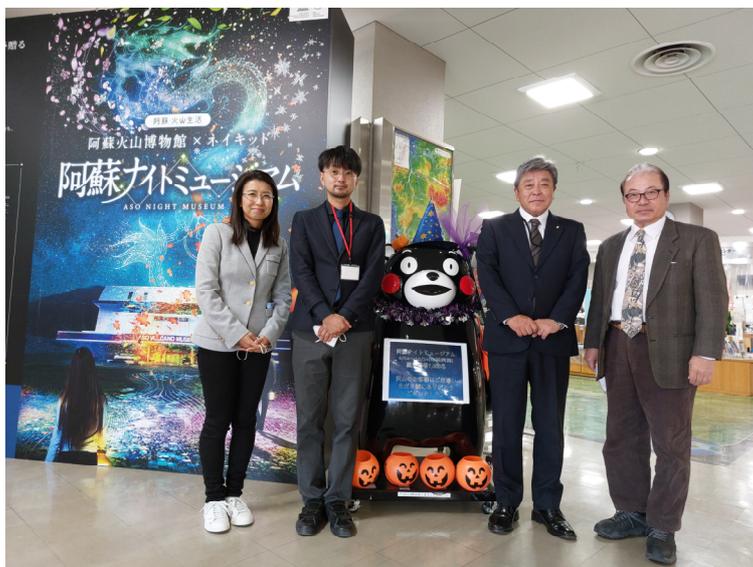
阿蘇火山博物館の展示(信仰とジオ)

阿蘇ユネスコジオパーク

○南アに活かしたいこと

- ・協議会としてのあるべき姿を確立したうえで、知見を入れた組織体制を充実させる。
- ・官民学協働で活動を進めて行く。
- ・文化遺産、景観を含めた大地に繋がる「大地に根付いた文化」(地名や氏名の関わりも含めて)を大切に活かす。
- ・こうしたことを、地域を挙げて総合的に調べる取り組みから住民の気づきにつながる。

2022/3/22



推進協議会事務局にて

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク



2022/3/22

協議会事務局から望む「雲仙・普賢岳」

島原半島ユネスコジオパーク

○概要

- ・「人と火山の共生」がテーマで、雲仙火山の噴火が引き起こした、災害とそこからの復興、火山の恵みや様々な地形と人との関わりを学ぶことができる。
- ・2008年2月に設立され12月に日本ジオパークに認定。2009年8月には世界ジオパークの認定を受ける。イエローカード判定をもらったことがある。
- ・事務局は、火山の全てを体験できる日本で初めての体験型火山ミュージアム「雲仙岳災害記念館」にある。

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク

○組織体制

- ・構成自治体、及び事務局員は、島原市2名、雲仙市1名、南島原市1名、協議会雇用2名、非常勤1名の7名体制。
- ・うち2名は、火山地質学、地理学を専門とする職員、1名は国際交流専門員。
- ・運営費を島原・雲仙・南島原の3市で協議して負担。将来的には会費制の採用も検討しているとのこと。
- ・予算は年度間に差はあるが、3市からの人件費は除いて2600万円程が事業費。事業費の増減は、事業の内容により増減しており印刷物・臨時採用人件費・看板等による。

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク



2022/3/22

協議会事務局にて(中村事務局長)

島原半島ユネスコジオパーク



子どもたちの学習の成果



広報紙

島原半島ユネスコジオパーク

○南アに活かしたいこと (ア)

- ・イエローカードが出たから前に進むのではないか。
- ・ジオパークが目的で来る観光者は少ないとのこと。ジオパークに係る歴史や文化を学ぶこと、それを伝えること、地域の誇りに繋げること。これらの活動が地域振興につながる。
- ・観光連盟との連携(連泊を伸ばす仕掛けづくり)。

島原半島ユネスコジオパーク

○南アに活かしたいこと（イ）

- ・ジオの見所をきちんと伝え、保全していく取組みが重要で、ガイドの養成が要である。
- ・子供たちの教育ができるスタッフの必要性(無償)。ジオの専門性や魅力を知ることから「いい所に住んでいる」との自負が生まれる。地域を自慢できる。
- ・南アの地域は、島原のような「危険な所」までとは言えないが、限界集落を標榜する厳しい環境であるくらしのなかで、「生まれたところで暮らすことの誇り」を、ジオを教材に子どもたちが学ぶ姿は参考にしたい。

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク

認定ガイドの長谷川さんとジオツアーへ



2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク

いのりの日

平成3年6月3日(午後4時8分)大規模火砕流が発生し、死者・行方不明者43名(マスコミ20名・消防団員12名・県警機動隊員2名・住民6名・火山学者3名・うち3名が行方不明)という尊い命が奪われました。

この日を『いのりの日』とし、毎年6月3日に北上木場農業研修所跡地で犠牲者の追悼碑への献花などが行われます。

「火砕流」の記憶を綴る

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク



「普賢岳」の爆発の記録(記念館の展示)

2022/3/22

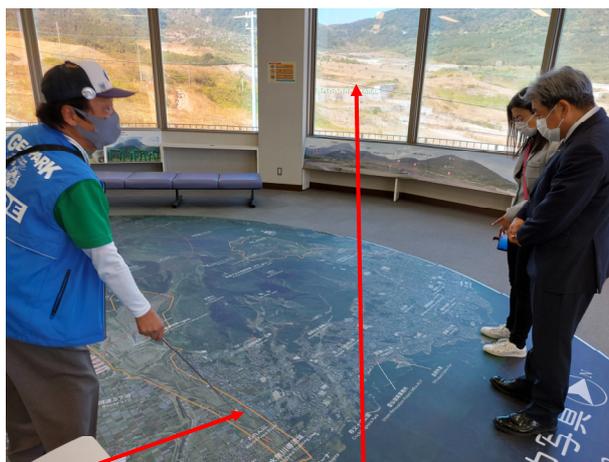
島原半島ユネスコジオパーク



2022/3/22

火砕流の様子を展示

島原半島ユネスコジオパーク



「火砕流」の状況の説明（現場にある資料館にて）

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク



火砕流で被災した小学校

2022/3/22

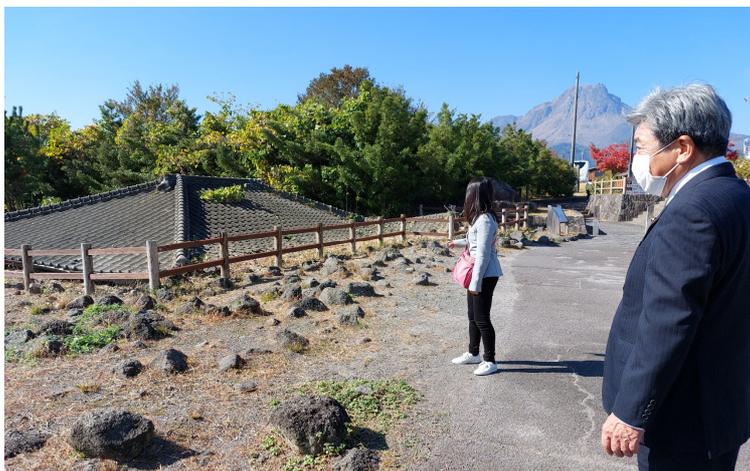
島原半島ユネスコジオパーク



視察当日、見学に来ていた修学旅行生

2022/3/22

島原半島ユネスコジオパーク



2022/3/22

土石流被災家屋保存公園と「普賢岳」

島原半島ユネスコジオパーク



2022/3/22

土石流被災家屋保存公園(被災家屋をそのまま展示)



ジオ(地球)に親しみ、ジオを学ぶ旅、
ジオツーリズムを楽しむ場所



南アルプス
ユネスコエコパーク

生態系の保全と持続可能な
利活用の調和(自然と人間社
会の共生)を目的

【継続が決まった今後の課題】

- ◎事務局体制の見直しと強化
- ◎基本計画と事業計画の改善

2022/3/22

ご清聴ありがとうございました



会派みらい

2022/3/22